

# 入門・協同学習の基本的な考え方と方法

安永 悟 (久留米大学)

キーワード：協同の精神、グループ編成、傾聴、ミラーリング、TPS、RR

本ワークショップは協同学習の初学者を対象としています。

本学会の名称は「日本協同教育学会」です。英語表記は Japan Association for the Study of Cooperation in Education (略称 JASCE) です。英語表記から推察されるように、教育場面における「協同」の活用に関する研究・実践、およびその普及が、本学会の目的です。

協同教育を一言で表現すれば、協同を基盤とした教育活動全般をさします。協同を基盤とした教育活動を展開するにあたり、本学会が依拠しているのが協同学習 Cooperative Learning の考え方と方法です。そこで、日本協同教育学会で展開している研究や実践を正しく理解するためには、協同学習に関する基本事項を理解していただく必要があります。協同学習の基本的な考え方や方法を理解しておれば、本大会で予定されている講演やフォーラム、さらには、研究発表や実践発表、ラウンドテーブルやワークショップを理解しやすくなります。

このような理由から、本大会では、協同学習の基本的な考え方と方法に関して、基本事項を習得または確認することのできるワークショップを、他の企画に先駆け、実施するプログラムを作りました。採り上げる内容は以下の通りです。項目ごとに簡単な説明を加えておきます。

## 1. これからの教育

- (1)教育目的：協調性のある主体的で能動的な学習者の育成を教育の目的としています。
- (2)教育方法：教育目的を達成するに相応しい方法として、協同学習を基盤としたアクティブラーニング (AL) 型授業が有効です。
- (3)AL と協同学習：AL 型の授業を理解するためには、協同学習の考え方が有効です。

## 2. 学び合える環境づくり

- (1)グループ編成：異質性の高いグループ編成が学習効果を高めるために有効です。
- (2)アイスブレイキング：仲間と協力・協調して学び合える環境を整えるために、協同学習の技法を駆使した自己紹介を体験します。そこでは、協同学習の基本構造 (課題明示・個人思考・集団思考)、学習の基盤となる活動 (関連づけ)、話し合いの基本 (傾聴とミラーリング)、協同学習の基本技法 (シンク=ペア=シェア “TPS”, ラウンド=ロビン “RR”) を紹介します。

## 3. 協同学習の定義と特徴

- (1)定義と特徴：小集団の教育的活用が最も簡単な定義です。ただし、単なるグループ学習とは異なり、協同学習であるためには「意図的な計画」「公平な取組」「意味ある学習」という特徴が求められます。
- (2)協同学習の基本要素：単なるグループ学習との違いを分ける規準として、ケーガンが提唱する協同学習の4つの基本要素、つまり「相互作用」「個人の責任」「平等性」「同時性」を紹介します。
- (2)協同の精神：「学習目的の達成に向け、仲間が心と力をあわせて、自分と仲間のために真剣に学ぶ」ことを「善し」とする心構えを「協同の精神」と呼んでいます。協同学習を基盤としたグループ活動の背後には「協同の精神」があります。「協同の精神」の有用性を理解でき、その育成に向けて創意工夫を重ねているグループ学習は協同学習と捉えることができます。

## 4. 協同学習の効果

- (1)認知と態度の同時学習：協同学習を導入することにより、認知 (技能を含む) と態度の同時学習が生起します。

本ワークショップは75分間という限られた時間のなかで、できるだけ多くの事項を紹介したいと思います。それだけに、初学者にとっては目新しい「ことば」が矢継ぎ早に出てきて、消化不良を起こす危険性があります。むろん、ワークショップですから、参加者同士が交流する機会はあるだけたくさん設けますが、やはり、事前準備 (予習) をしていただくことが一番です。そこで、事前準備に適した書籍を次に紹介しておきます。初学者の方は、本大会に参加される前に読まれることをお勧めします。

## 推薦図書

- ジェイコブスら (2005) 先生のためのアイディアブック, 関田 (監訳) ナカニシヤ出版  
入門書としては定評のあるテキストです。協同学習の基本的内容がわかりやすく解説されています。
- 安永悟 (2012) 活動性を高める授業づくり：協同学習のすすめ, 医学書院  
一方向的な授業にグループ活動を導入して、活動性の高い授業づくりを行うための手引き書です。看護教育の話題が多く取り上げられていますが、小・中・高・大のすべての教育においても適用できる内容となっています。
- 安永悟・須藤文 (2014) LTD 話し合い学習法, ナカニシヤ出版  
理想的な学習法であり対話法である LTD 話し合い学習法について、理論的背景と実践上の留意点および実践事例が紹介されています。加えて、協同学習に関する記述の充実しており、協同学習についても知るすることができます。